

1. はじめに

「語学力は想像力！」と、よく言われます。私が中学生だったその昔、当時の英語の先生から「・・・と、昔からよく言われているんだぞ。」との指導を受けたくらいですから、それはそれははるか昔から語り継がれてきた真理なのでしょう。語学の、殊にコミュニケーションをはかる会話の実践においては、教科書通りの想定問答が展開されることなど決してないわけで、ましてや日常会話においては、文法通りフルスペックの品詞が並ぶはずもなく、省略や比喻、流行り言葉などを、脳ミソをフル回転させて前後の文脈から意図を汲んでいくわけです。でもこの話し、何も外国語に限ることはありませんよね。日本人同士の日本語での会話でも、異なる地域の方言や、遠回しな物言いや、果ては言葉にならず察して欲しいような素振りなどに直面した時には、恐らく脳ミソが汗をかくほどに想像力を働かせているはずで、そして「こういう事なのだろうなあ。」と当たりを付けた想像を、その後の会話でそれとなく確かめていくわけですね。それがあながち的外れでもなければ通じ合う喜びをかみ締め、そうでなければ脳ミソの汗は冷や汗に変わり……。コミュニケーションの醍醐味は、誠につきることがありません。そして、生まれてこの方当たり前に使いこなしているはずの母国語でそうなのだとしたら、ましてや外国語でのコミュニケーションなど1つでも通じれば「御の字」くらいに考えて、あとはひたすら想像力たくましく微妙な話しのすれ違いを楽しみつつ、相手への会話のストライクゾーンを見出していく。これが国際交流の第一歩です。そこがスタートラインならばあとは深まる一方なわけですから、何も恐れ不安がるに足るものではなく、楽しみと喜びと希望しかないのだと思えてきませんか。最初のキーワードは「想像力」です。語学を通じた豊かなコミュニケーションのために、大いに想像力を磨きましょう。では、どうやって？

人の想像力とは、進歩の一途をたどってきた歴史を振り返ると誠に偉大なものなのですが、しかしどうやら未知なるものをイメージできるほどには万能ではないそうです。言い換えれば、知っていることを手掛かりに、わずかずつ範囲を広げていくものなのだそうです。そう、次のキーワードは「知」です。この「知」を用いる似た言葉に「知能」「知性」「知識」「知恵」があり、教育ではどれも普段からよく使う言葉ですね。これらの意味の違いについて、私はざっくりと次のように捉えています。知能とは、答えのある問いに対してそれを正しく導いてこられる力。知性とは、答えのない問いに対してそれを問い続けられる力。知識とは、他者の経験から学ぶことのできるもの。知恵とは、自身の経験からしか学び得ないもの。これまでの皆さんの学びで培ってきた知能・知性・知識を足掛かりにして、ここからは新たな経験を自らに課すことで得られる知恵を豊かに、自分独自の想像世界を以てコミュニケーションの幅を広げていきましょう。世の中がグローバル社会を語り始めてすでに久しいならば、皆さんのコミュニティもやはり国境を越えた先にまで続いていますし、教育が外国語に力を入れて多文化理解を促すならば、ここは皆さんの経験に基づいた想像力、すなわち言葉を越えられるコミュニケーション力が期待されることです。

長引くコロナ禍の現在、LCCなどの活況により驚くほど外国が近かったそれ以前が、夢幻のようにも思われます。国外に注視すると、命を守るための生活の不自由が国を問わない状況にすらグローバル社会の一端を見て取れるわけですが、医療技術のフル稼働によって現状を克服しようとする人々の姿からは、大きな希望を国を越えて皆が共有していることを容易に想像できます。知の様々な培われた想像力をもてば、こうした状況においても人々の想いは離れた国を易々と越境できるのです。そして、近々コロナ禍が克服されたグローバル社会は、その経験を経て新たな段階へと進むことに疑いの余地はありません。その暁には、どのような方法であっても構いませんので、皆さんにはぜひとも一度日本から飛び出し、外国そして外から見る日本を経験することで、想像力により一層の磨きを掛けてもらいたいと思います。

副理事（国際交流担当）

二宮 毅